

新生児専用ドクターカーをリニューアルしました

当院では、2026年3月27日より新生児専用ドクターカーをリニューアルし、運用を開始しました。新生児専用ドクターカーは、救命処置が必要な新生児に対し、医師が車内で治療しながら新生児集中治療室(NICU)に搬送を行います。

4代目となる車両は長さ約5.2メートル、幅約1.9メートルで、先代よりもコンパクトになり、細い路地でも走行しやすくなりました。また、揺れも軽減され、搬送中の治療も行いやすくなりました。さらに、保育器2台を搭載することができ、双子にも対応いたします。

当院では24時間365日、姫路市全域はもちろんのこと、県北部から西は県境まで新生児を救うため、これからも最新医療の提供を行ってまいります。



「第106回日本呼吸器学会近畿地方会」にて、 臨床研修医が「若手アワード会長特別賞」を受賞しました

受賞者より

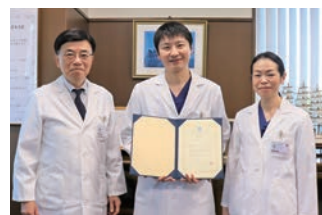
この度、第106回日本呼吸器学会近畿地方会において、「若手アワード会長特別賞」を受賞いたしましたので、ご報告させていただきます。人生で初めての学会発表で、右も左も分からない状態からのスタートでしたが、呼吸器内科の先生方より手厚くご指導いただきました。事前に何度か予演会を行い、考察内容についても、前日の夜まで調整しました。

発表当日、人前で話すことに多少慣れていたこともあり、緊張はそれほどありませんでしたが、質問にきちんと答えられるか不安がありました。発表は多少噛みながらではありましたが無事に終了し、不安だった質疑応答についても、先生方と準備を重ねた甲斐があり、的確にお答えすることができました。その結果、このたび会長特別賞を受賞することができました。

興味深く大変貴重な症例と学会発表の機会を与えてくださり、またご多忙の中、手厚くご指導いただいた、呼吸器内科の先生方に深く感謝申し上げます。

今年度より、私は当院にて小児科専攻医として勤務いたします。本受賞を励みに、今後も一層精進してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

初期研修医2年目 江崎 貴博



指導医より

江崎先生、この度は、第106回呼吸器内科学会近畿地方会若手アワード、会長特別賞の受賞、本当におめでとうございます。

症例のポイントを整理した分かりやすい発表であったことや、質疑応答にも落ち着いて的確に答えていたことが、高い評価につながったのだと思います。

今回の症例は非常に稀な疾患であり、先生の発表は会場で傍聴された先生方にとっても大変有益であったと考えます。

症例報告を通して学んだ経験をもとに、今後の診療でのさらなる活躍を期待しています。

第二呼吸器内科部長 真下 周子



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

姫路赤十字病院

〒670-8540 兵庫県姫路市下野1-12-1

電話 079(294)2251(代)

URL: <https://himeji.jrc.or.jp/>



ホームページ

姫路赤十字病院だより No.52

発行日 令和8年4月

発行 姫路赤十字病院

発行責任者 院長 岡田 裕之

編集責任者 広報推進室長 五百蔵 智明

姫路赤十字病院だより No.52

地域とともに命を守る

24時間365日の脳・心臓血管医療



脳・心臓血管センター長
兼 第一循環器内科部長

藤尾 栄起

Fujio Hideki

脳・心臓血管センター副センター長
兼 第二脳神経外科部長

高橋 和也

Takahashi Kazuya



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

姫路赤十字病院



脳・心臓血管センター副センター長
兼 第二脳神経外科部長

高橋 和也
Takahashi Kazuya

脳・心臓血管センター長
兼 第一循環器内科部長

藤尾 栄起
Fujio Hideki

心臓や脳を含めた全身の血管疾患に挑みます

心筋梗塞や狭心症、不整脈、心不全、脳卒中といった疾患は、時として一刻を争う対応が求められます。この働き方改革の時代に、一つの科では難しいことも、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科が協力することによって、24時間365日体制で救急患者さんを受け入れることが可能になります。それが、姫路赤十字病院の脳・心臓血管センターです。

この3つの科は、「動脈硬化性疾患に立ち向かう」という点において志を同じくしています。1つのバスキューチームとして、心臓や脳を含めた全身の血管疾患に挑みます。このセンターも今年の4月で、13年目を迎えます。各々の専門性を活かしながら、またお互いの足りないところを補い合いながら日々診療に励んでいます。

まだまだ発展途上のセンターではありますが、当センターを循環器領域、脳神経外科領域に分けてご紹介させていただきます。

循環器部門

循環器領域においては、心筋梗塞や不整脈、心不全、急性大動脈解離や急性動脈閉塞といった疾患が救急診療の中心です。近年、カテーテル治療の進歩は目覚ましく、低侵襲な治療を迅速に提供することによって患者さんの身体的負担を大幅に軽減することが可能となりました。また当院では救急外来から血管撮影室、320列CT、3テスラMRIを一箇所に集めて、診断から治療までを迅速かつスムーズに対応できるようなシステムを構築しています。急性動脈閉塞のケースでは、血管撮影室にて心臓血管外科医と循環器内科医が協力して治療にあたります。また緊急で外科手術が必要になった場合には、血管撮影室からハイブリッド手術室まで直通のエレベータを使用して速やかに次の治療に進むことが可能です。当院の心臓血管外科手術は、丁寧、繊細かつ堅実な治療を行います。術後は充実した設備のICUにおいて当院が誇る麻酔科医のサポートを受け全身管理を行います。

脳神経外科

●脳血管障害に対する対応

もやもや病をはじめとした小児疾患から高齢者疾患まで対応しております。脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳血管障害に対し、当科では急性期治療から回復期への橋渡しまで一貫した管理を行っています。脳梗塞に対しては、急性期再開通療法（rt-PA静注による血栓溶解療法及び血管内治療）にも迅速適切に対応し、徐々に症例数も増えております。脳出血や血管内治療が困難な一部のくも膜下出血に対しては、外科的治療を含めた集学的治療を提供しています。最近では未破裂脳動脈瘤に対する治療機会も増えております。フローダイバーター治療も含めたより良い治療方針を提案させていただくようにしております。治療に難渋しそうな脳動脈瘤に対しては、岡山大学脳神経外科と連携し、3Dプリンタ作成中空型脳動脈モデルを用いた術前シミュレーションを踏まえた血管内治療の提供も始めております。脳動静脈奇形や一部の硬膜動静脈瘻

●脳腫瘍に対する対応

術後化学療法を要することが予想される一部の小児悪性脳腫瘍症例を除いて対応しております。

当科では、脳腫瘍手術において5-ALA（アミノレブリン酸）を用いた蛍光ガイド下手術を積極的に導入しています。腫瘍細胞が取り込んだ5-ALAが術中に蛍光を発することで、肉眼では判別しにくい腫瘍境界の可視化が可能となり、より安全かつ確実な腫瘍摘出を目指すことが出来ます。この蛍光ガイドにも先述のKINEVO 900Sが活躍しています。また、当科では、脳腫瘍手術に限らず、運動機能に影響を及ぼす可能性がある手術には術中MEP（運動誘発電位）モニタリングを積極的に導入し、運動機能の温存を重視した手術を行っています。

24時間、365日対応します

当センターでは、原則として紹介患者さんにつきましては、24時間365日対応する方針としております。この救急体制は脳神経外科の常勤医師4名と循環器内科の常勤医師8名が協力して行っております。従いまして、ご連絡いただいた時間帯によっては循環

高齢化社会に伴い増加している、心不全や心臓弁膜症に対しても、デバイス治療を含めた内科的治療から外科的手術まで、心不全療養指導士や心臓リハビリテーション指導士を含めた多職種で最適な治療方針を検討し、ハートチームとしてアプローチすることを心がけています。

このセンターを運営していく上で、もう一つ大事な事があります。それは近隣の病院やクリニックのスタッフの皆さんの存在です。これからも皆さんと密に連携し、検査データや治療方針を共有することで、患者さんが住み慣れたこの地域で、これからも安心して医療を受け続けることができる様、当センターも微力ながら最善を尽くし、中播磨、西播磨地域の医療に貢献できるよう努力してまいります。

今後も、日赤の精神に基づき、高度な専門性と温かい看護を両立させた医療を提供してまいります。私たちは、地域の皆様とともに、最新かつ最善の医療を尽くすことをお約束いたします。

症例に対しては血管撮影装置を備えたハイブリッド手術室を活用して、より根治性の高い治療を提供しています。

2025年11月には新しい顕微鏡装置としてZEISS社のKINEVO 900Sが導入されました。これは顕微鏡と外視鏡を兼ね備えた機械で、西日本では第一号機です。優れた4K、3Dカメラを備えていて、非常に鮮明な術野が得られます。特にロボット技術が進化していて、手術器具を自動認識してセンタリングも自動でしてくれるなど、術者の負担をかなり軽減してくれる機械です。

また、再発予防や慢性期管理については、かかりつけ医の先生方と連携し、治療後の逆紹介を積極的に実施しています。二次予防の薬剤選択に悩まれる症例がありましたら、当科にご相談下さい。お急ぎでない場合は、FAX紹介をしていただけますと、初診患者さんでも予約をとりますので、待ち時間の発生が抑えられます。

下垂体及び鞍上部腫瘍に対しては神経内視鏡を用いた経鼻的経蝶形骨洞手術を積極的に行っています。大きな腫瘍に対しても、耳鼻咽喉科頭頸部外科と合同で拡大経蝶形骨洞手術をすることで、経鼻からのアプローチでも術後の髄液漏予防が十分に出来ております。

また、総合病院の強みを活かし、当科では、脳腫瘍診療においてゲノム医療（遺伝子パネル検査）を活用した個別化治療に取り組んでいます。腫瘍組織の遺伝子変異や分子プロファイルを解析することで、腫瘍の生物学的特性をより正確に把握し、治療方針の最適化や予後予測の精度向上につなげています。がんゲノム医療に取り組んでいる施設は西播磨地区では当院のみとなっています。

器内科医が初期対応する場合がありますが、自宅待機している脳神経外科医とは遠隔画像読影システム（Join）を介して緊密な連携をとっておりますので、ご遠慮なく、センター医師直通電話（079-298-8531）にご連絡いただければ幸いです。

脳・心臓血管センター長 兼 第一循環器内科部長
藤尾 栄起

脳・心臓血管センター副センター長 兼 第二脳神経外科部長
高橋 和也